

令和5年度 長浜市DX実証実験プロジェクト事業

実績等報告関連資料

【事業の目的】

本市をフィールドにデジタル関連
の技術やサービスを活用した
実証実験を実施

※市は実証実験の取組に対するサポートや
補助金交付などの支援を行う※

DX

デジタル・トランスフォーメーション

地域課題の解決
市民生活の質の向上

【スケジュール】

令和5年4月 実証実験プロジェクト募集
(公募型プロポーザル)
5月 実証実験プロジェクトの採択
(応募提案数13件 ⇒ 採択4件)
プレキックオフ会議

6月～令和6年3月 実証実験の実施
(進捗報告等含む)
実績報告

伝統文書の複製による次世代への文化の伝承と展示物解説サービスによる情報の効果的な周知、広報

プロジェクト実施者：富士フイルムBI福井株式会社（長浜営業所）（福井県福井市）

市担当部署：文化観光課（歴史まちづくり室・長浜城歴史博物館）

Slide 04 ~

人工衛星データを活用した農業行政・農業生産に関するDX実証

プロジェクト実施者：国際航業株式会社 滋賀営業所（滋賀県大津市）

市担当部署：農業振興課、農業委員会事務局

Slide 16 ~

長浜市民の脱炭素型地域づくり促進事業

プロジェクト実施者：株式会社スタジオスポビー（東京都中央区）

市担当部署：環境保全課（連携部署：商工振興課、健康企画課、こども若者応援課）

Slide 25~

長浜市内の中小企業×フリーランス・複業人材のマッチング事業

プロジェクト実施者：me株式会社（滋賀県守山市）

市担当部署：商工振興課

Slide 42~

概要

地域の歴史的・文化的な伝統文書などは、劣化や破損の防止の観点から展示や手で触れる体験の提供が難しく、地域資料としての効果的な活用が困難な状況となっています。

そこで、本取組では、「先人の教え・知恵・思い・気持ちの伝承」など将来世代への伝承を市全体で実現させることを目的として、デジタル技術等を活用した 伝統 文書複製サービスにより長浜城歴史博物館などで保管する伝統文書等の複製を行い、企画展で手で触れるなどの体験の提供と、展示物解説サービスによるスマートフォン上での詳細情報の提供を通じて、市民等の地域資料への関心を高め学びの充実を図ります。

実証実験で利用する具体サービス

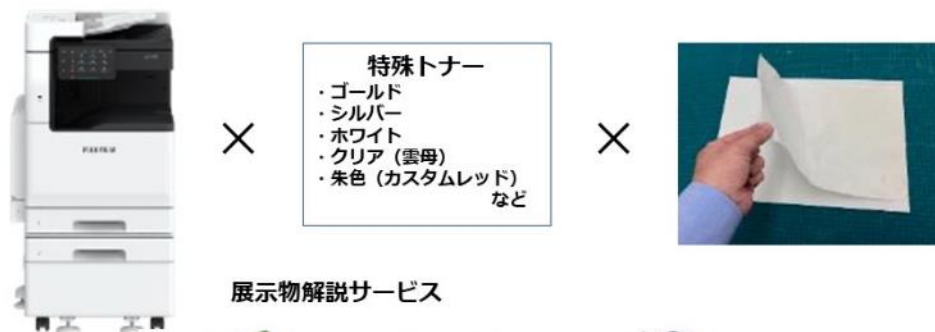
① 伝統文書複製サービス

- 伝統文書、古文書の複製 5点程度
- 原本に限りなく近い色の再現のためのデジタル複合機と特殊トナーの開発、使用
- 電子化、デジタル加工、出力、仕上げまでのプロセスの自社内対応

複製プロセスの自社内一環対応



高品質複合機と特殊トナー、和紙の走行性



② 展示物解説サービス

- 画像情報をお手持ちのスマホやタブレットで撮影し、画像を被写体エンジンで認識し、外部コンテンツに誘導するシステム
- 専用機器不要、特殊マーカー不要、撮影環境の影響なし、高速検索

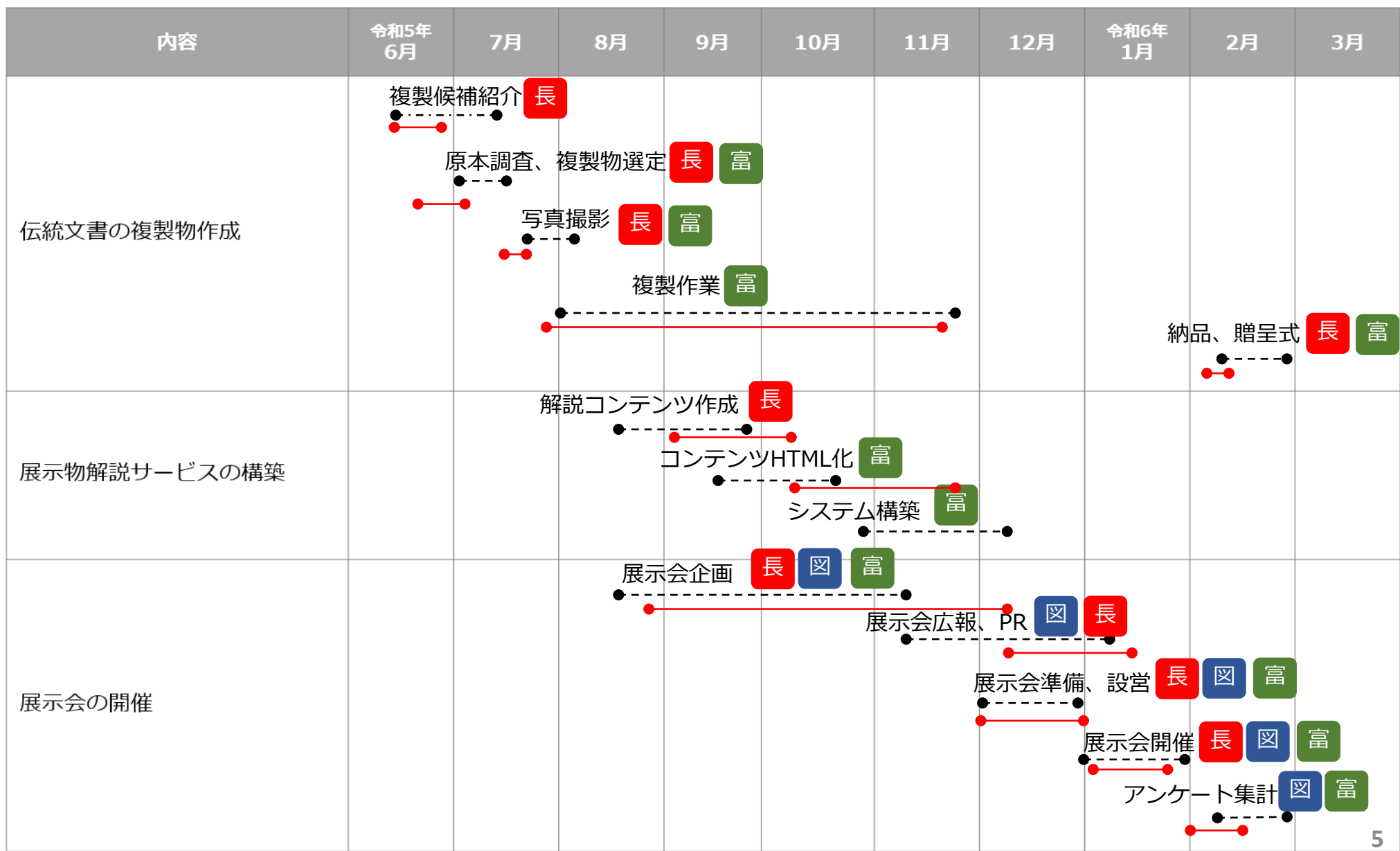
※展示物解説サービスは、NECネクサソリューションズの被写体基盤サービスを使用して構築



〈PJ〉 伝統文書の複製による次世代への文化の伝承と展示物解説サービスによる情報の効果的な周知、広報

事業スケジュール

●---● 計画 ●---● 実施 長 長浜市/長浜城歴史博物館 図 図書館 富 富士フィルムBI福井



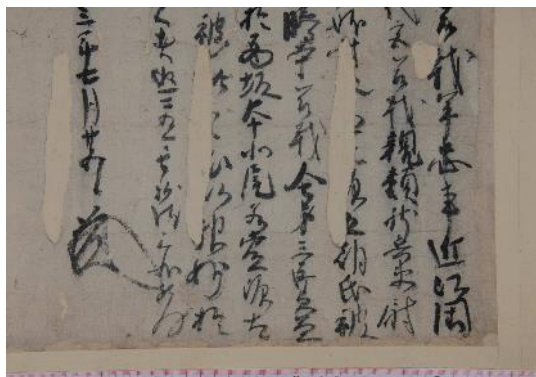
実証方法 : 対象複製物

- 下坂家に伝来した「下坂家文書」は卷子（巻物）11巻、一枚もの302通、冊子143冊、絵図9枚などから構成されており、南北朝時代から明治初期の下坂家や地域の情勢を読み解くことができる。このうち下記8点を複製。
- 下坂家文書は、その重要性から長浜市指定文化財となっており、通常は、博物館等の展示ケース内で展示をし、市民に見ていただく機会としている。今回の実証実験で複製を作成し、図書館やまちづくりセンター等で展示公開することで、長浜市に残る貴重な資料を間近で見たり、触ったりすることができるため、より臨場感をもって郷土の歴史を体感することができる。さらに、事業終了後も下坂氏館跡での展示など、様々な場面での活用が期待できる。

複製対象文書(8点)

No	品名	仕様	数量	単位
1	足利直義感状 下坂治部左衛門尉宛	(縦31.8cm×横38.9cm)	1	紙
2	浅井亮政書状 下坂四郎三郎宛	(縦13.4cm×横35.2cm)	1	紙
3	浅井長政書状 下坂四郎三郎宛	(縦14.3cm×横36.6cm)	1	紙
4	下坂一智入道書置 下坂久左衛門宛	(縦29.8cm×横29.1cm)	1	紙
5	歴代考記 下坂高凱書	(表紙・縦27.5cm×横19cm) 山折り37枚・表紙裏表紙	1	冊
6	阿弥陀三尊来迎図	(縦146.4cm×横87.6cm) (分割4カット撮影予定) 本紙絹本 丸表装仕上げ	1	幅
7	法然上人像	(縦102.9cm×横80.9cm) (分割4カット撮影予定) 本紙和紙 丸表装仕上げ	1	幅
8	下坂家系図 (清和天皇～下坂高重)	(縦35cm×横不明) 約1m20cm部分出力・卷子仕上げ (軸直径35mm・巻直径65mm・表紙お任せ)	1	巻

実証方法 : 複製対象物原本画像



No1.足利直義感状 下坂治部左衛門尉宛



No2.浅井亮政書状 下坂左馬助宛



No6.阿弥陀三尊来迎図



No7.法然上人像



No8.下坂家系図
(清和天皇～下坂高重)

Appendix 原本撮影、複製物企画展、講演会、贈呈式の模様



原本撮影



企画展①



企画展②



企画展③



講演会



贈呈式

Appendix 展示物解説サービス

展示物解説サービスの手順 スマートフォンが捉えた画像から、それぞれの展示物の解説を見ることができます

1 QRコードで専用カメラを起動

QRコードを読み取り、こちらの画面を表示



2 スマートフォンで資料を撮影

資料を撮影してください。
下記の赤い枠の範囲を含めて撮影してください

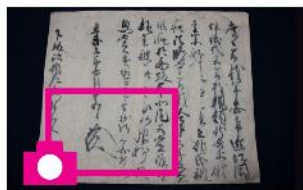


3 解説コンテンツが表示される

認識結果が表示されたら、画面したの関連情報の「Webサイトで詳細を表示」を押してください



① 足利直義感状 下坂治部左衛門尉宛



② 浅井亮政書状 下坂四郎三郎宛



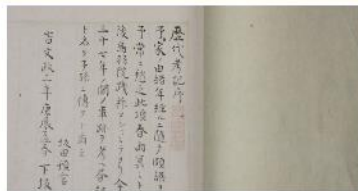
③ 浅井長政書状 下坂四郎三郎宛



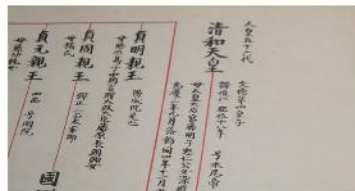
④ 下坂一智入道書置 下坂久左衛門宛



⑤ 歴代考記 下坂高凱書



⑥ 下坂家系図 (清和天皇～下坂高重)



⑦ 阿弥陀三尊来迎図

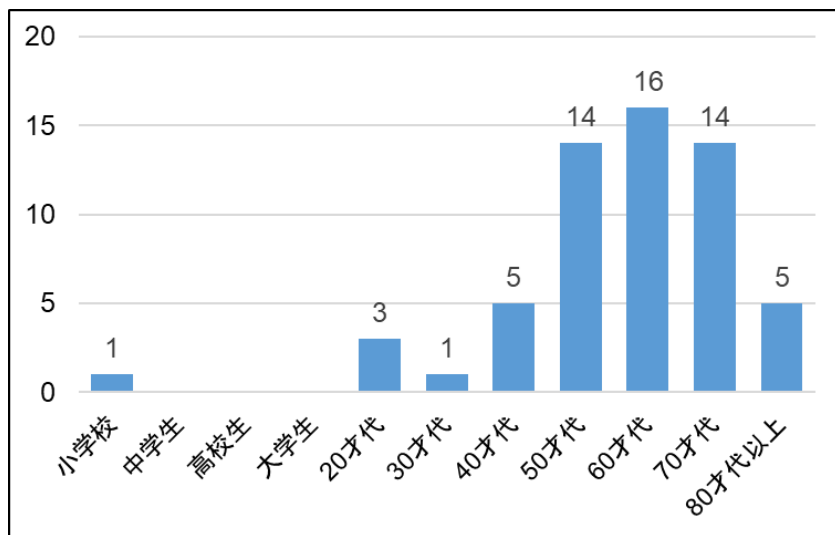


⑧ 法然上人像

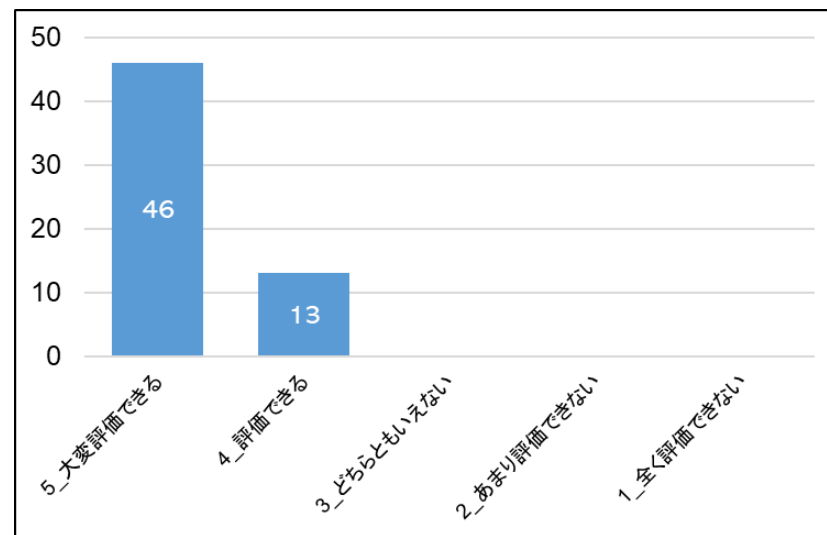


Appendix 企画展の見学者アンケート結果

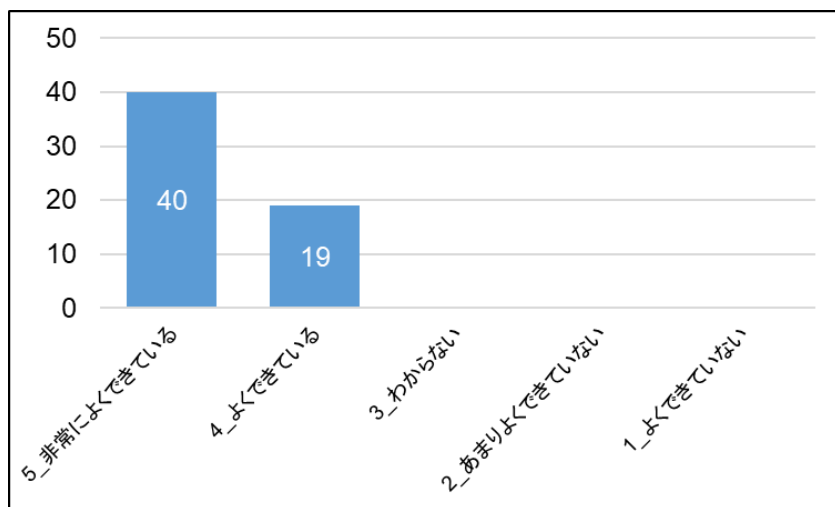
回答いただいた年代



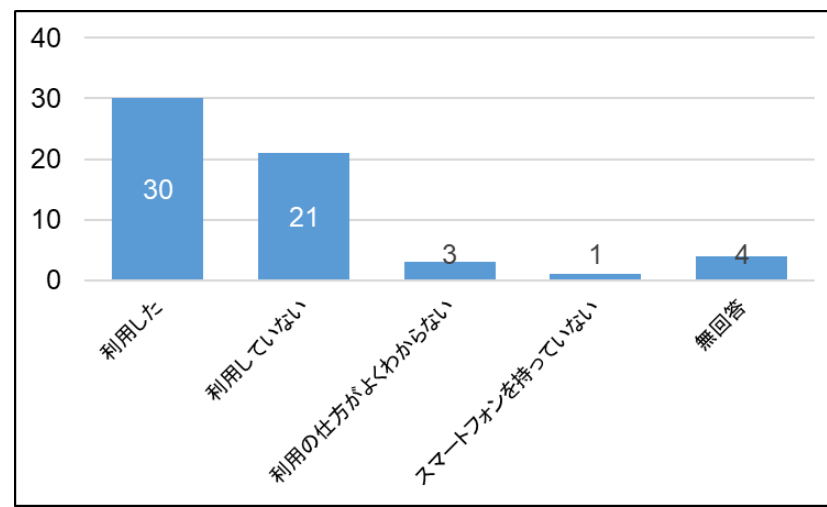
伝統文書複製のとりくみについて



複製の出来ばえ



展示物解説サービスの利用について



Appendix 企画展の見学者アンケート結果

自由記入コメント(原文のまま)

- ・これが普及することを期待します
- ・古文書だけの展示会とあわせて古文書の読み方などの手法入門などの機会があれば嬉しいです
- ・菅浦文書もこの方法で直に見てみてたです
- ・今後このような技術を活用して公開しづらい資料を展示 & 説明いただけると嬉しいです
- ・複製品は非常に鮮明で価値があると思います
- ・複製を手にとって見られるところが関心が高まると思う
- ・大変良かった。大切な取り組みだと思います。頑張ってください。
- ・古文書、文化財が手に触れられるのは直接歴史を感じられるようで素晴らしいとだと思えます
- ・大変すばらしい。下坂家館で見たら一味ちがうと
- ・阿弥陀三尊来迎図をかがんで見ると浮き出る模様には感動しました
- ・こうした取り組みを頼もしく期待する
- ・下坂氏の情報や昔の活躍されていたことを今後も伝えていってほしいです
- ・阿弥陀三尊の掛け軸、身近に拝観でき少しかがんで見た衣の素晴らしいこと、初体験でした
- ・館跡でも活用できればいいのですが・・・お願いします
- ・手に取れるのが素晴らしいです。当時の人達の気持ちを感じられます。ぜひ教育や歴史展示の分野での活躍を期待致します。
- ・とても高い技術力に感激しております。常設いただきたいです。ありがとうございました
複製技術に驚きました。
- ・湖北にある古文書にどのような古文書があるのか全体像がつかめず展示でバラバラに見るだけでその場限りになりがち
- ・展示物解説サービスは歴史的背景の説明はわかりやすい
- ・展示物解説サービスは古文書自体の解説がしたいのにこの点不足している。この場だけでなく、家でも見たいときはどうするのだろうか？

目標に対する結果

区分	KPI	目標	結果
活動指標	複製物の作成/納品	5件	8件 12月7日納品
	展示物解説サービスの構築 構築納期	2023年12月末	12月5日 構築完了
成果指標	展示、企画展の開催 実施	2024年1月 約1ヵ月間	1月5日～1月28日、長浜図書館展示コーナーにて開催 1月27日_特別講演会開催
	利用者のアンケート評価	4.0+(5点満点)	4.73 伝統文書複製の取組みの評価(4.83)と複製物に対する出来ばえ評価(4.73)の平均

成果と課題

本実証による成果

- 伝統文書を複製し、より身近に触れる機会を設けることにより、地域の文化財に対する理解が深まったと考察する。
- 複製物を企画展等で掲載することで、市民や来場者へ下坂氏および下坂氏館跡のPRができた。
- 図書館の展示コーナーの活性化、集客につながった。
- 今回の取組を通じて、伝統文書の複製自体に関する問合せが入るなど、多くの方に複製に関する興味やそのメリットを感じていただけた。

課題

- 複製にかかるリソース、パワーが限られているため、目的や活用方法を考慮した複製物の選定判断が必要。
- 課題のプライオリティ上、取組を実施するための財源等の確保が必要。（例：クラウドファンディング）
- 複製物を多くの方に触れていただくための展示スペース（かつ好立地）の確保が必要。
- 展示会の来場者に対する複製物の説明等と必要なコストの確保が必要。
- 若者に対する文化伝承の重要性の理解を促進するための実効性のある具体策の構築が必要。

取組結果等に対する市担当部署コメント

【成果】

- 長期展示が難しい実物の歴史資料に代わり、高精細の複製品を製作し、市民に身近な施設である図書館で展示・公開したことで、多くの市民や子どもたちが地域の歴史や文化を身近に感じ、地域に思いを馳せることができ、本取り組みの主目的であった「先人の教え・知恵・思い・気持ち」を伝承する良い機会となった。
- デジタル技術を駆使した高精細な複製品は、これまでとは違った鑑賞体験を提供することができ、文化財の新たな活用が期待できる。さらに、実物資料の現在の形状を記録しておくという点においても有意義な取り組みであったと考える。
- また、デジタル技術の面においては、高精細な画像の撮影とともに高品質な印刷機器が使用された。ゴールドやシルバーといった特殊なトナーを使用することで再現性の高い印刷技術を実現しており、今回の複製品の一つである「阿弥陀三尊来迎図」では特にその有用性が認められた。
- なお、製作した複製品は事業者から長浜市へ寄贈され、現在、下坂氏館跡の主屋で公開中である。

【課題】

- 文化財の高精細デジタル撮影や専門機関での製作等が必要となることから、高額な費用が想定され、一度に多くの複製品を製作することができない。また、展示物解説サービスによる詳細情報の提供は、今回の実証実験限定のサービスになってしまうため、システムの導入が必要となる。

【今後の展開等】

- 新たな文化財の活用方法として、将来的には、博物館収蔵資料の複製品製作や展示物解説サービスの導入等を検討していきたい。

〈PJ〉人工衛星データを活用した農業行政・農業生産に関するDX実証

概要

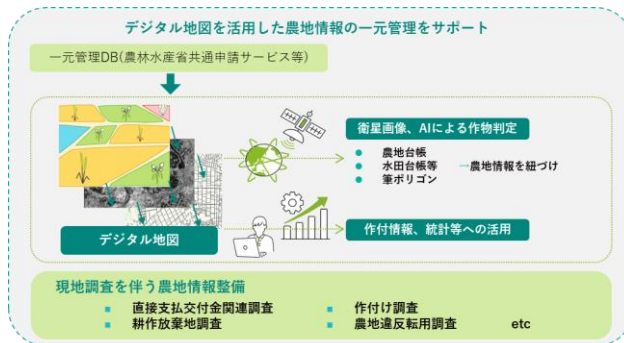
農業行政では、パトロールや現地調査を伴う農地情報の整備・管理が不可欠であり、作業の省力化・効率化・最適化が求められている。また、農業生産現場では、スマート農業技術を導入し、生産性の向上が求められているものの、地域特性やさまざまな環境に応じて導入する技術の選定や行政の関わり方に課題を抱いていると考えられる。

そこで、本取組では、人工衛星データを用いた農地情報の可視化、農作物の生育状況の可視化を試行し、行政と生産現場が連携した農業全体のDXモデルを構築し、長浜市における農業DXを加速させることを目指して実証を行なう。

実証実験で利用する具体サービス

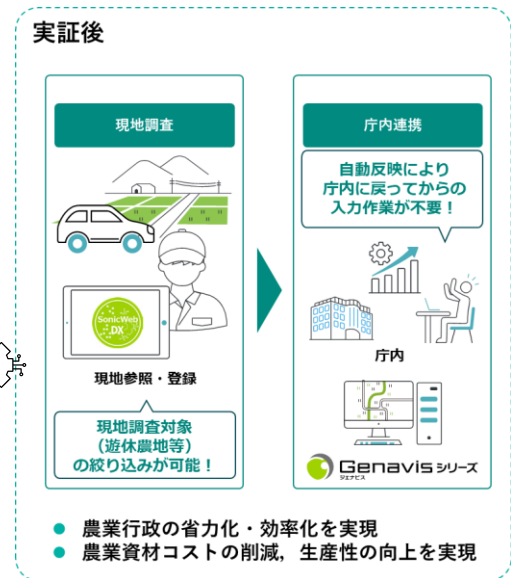
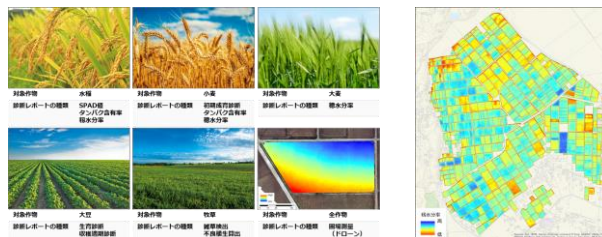
① 農地調査業務向け圃場情報整備サービス

- 人工衛星データを活用し、圃場の利用状況（耕作の有無，作付け区分）を可視化し、圃場GISデータ（シェープファイル等）に付与



② 営農支援サービス「天晴れ」

- 人工衛星データを活用し、農作物の生育状況を可視化
- 生産者が活用し易いよう、生産現場で用いられている既存の判断指標を用いて可視化
- PDF形式・KMZ形式に加え、連携している作業管理アプリで診断結果を確認可能



課題と目指す成果

事業の実施によって解決を図る課題

課題①：農地情報管理に要する多大な時間・労力

- 農地パトロールや現地調査が必要で、対象地域の圃場のサンプリング調査で実施するものの、調査圃場の選定や準備、調査自体に多大な労力や時間を要する。また、調査圃場の選定方法によっては、違反転用などが行なわれている圃場を見落としかねない。
- 農地パトロールや現地調査の省力化・効率化に加え、対象圃場の最適化を図ることを目標に、長浜市全域の農地（7,940ha、約57,000筆）を対象に、時系列の人工衛星画像を用いて、農地情報（耕作状況、作付けなど）の可視化を試行する。
- 衛星データによって可視化した農地情報について、正確性や妥当性の観点から数値化し、この数値に基づいて圃場選定を行なうことで、計画立案に要する時間の省力化や客観性の確保を検討する。

課題②：長浜市に適した農業DX・スマート農業技術による農業振興の実現

- 現状のスマート農業はハードウェア重視となっており、農業生産人口の大多数を占める中小規模の生産者にとってはハードルが高く、スマート農業技術の導入による生産性の向上が図れていない地域が多い上、外部要因による経営状況の悪化が問題となっている。
- 営農支援サービス「天晴れ」では、人工衛星データを用いることで地域全体の農作物の生育状況を可視化することができ、既存の機器を活用しながら生産性を高めることに、全国で数多くの実績を有している。
- 今回の実証の中で、農作物の生育状況を可視化（対象作物・回数は関係者と要調整）し、生産者、JA、自治体、農業改良普及センターとその有効性について検証し、長浜市に適した農業DX・スマート農業技術について検討・協議する。

事業の実施によって実現したい姿（目的）

農業DX・スマート農業技術の長浜市モデルの構築・実装

- 農地情報管理に要する時間・労力を削減し、他の農業行政や農業振興に転換の実現
- 大きな投資が不要なスマート農業技術の導入・活用による生産性向上の実現

長浜市の農業の活性化の実現を目指す

農業行政DX：農業委員会事務局 農地パトロール（遊休農地調査）

【現状】

- 遊休農地（①耕作の目的に供されておらず、引き続き耕作の目的に供されないと見込まれる農地。②周辺の農地よりも利用程度が著しく劣っている農地（①の農地を除く））を年に1回調査しており、農地の利用状況を現地調査で確認し、遊休農地の所有者等に対する意向調査を実施している。
- 現地調査（農地パトロール）は、過年度調査の結果を加味しつつ、7月～8月に実施している。

【実証のアプローチ】

- 調査実施時期の前までに観測された衛星画像データを解析することで遊休農地を抽出し、圃場ごとの抽出確度を可視化することで、パトロール対象圃場選定の効率化を目指す。
- 2022年の衛星画像データ及び現地データを基に、既存の画像解析手法の改善を図り、2023年のデータで検証を行なった。

【実証の結果】

- 現地確認の結果を真値として人工衛星データから抽出した遊休農地の精度を検証した結果、**正解率：95.8%、再現率：91.0%の高精度で遊休農地を抽出**できていることが確認できた。※ 遊休農地抽出精度の達成目標：90%
- 誤判定した圃場の特徴としては、圃場の地図情報が現況と合致していない、圃場内で複数の作物が作付けされている、5a未満の狭小圃場等が挙げられた。

【関係者の評価】

- 現地パトロール対象外の圃場において、荒廃している圃場の存在が確認でき、パトロール対象圃場選定に有効
- 人工衛星画像による抽出結果の方が妥当である事例が散見された
- 農業振興地域の範囲や獣害対策フェンスなどの情報を加味することで、より有用な情報として整備・活用できる



■：人工衛星データから抽出した遊休農地候補

農業行政DX：農業振興課 農地パトロール（作付け調査）

【現状】

- 8月下旬に水稲作付け、9月下旬に大豆作付け現地調査（農地パトロール）を実施している。

【実証のアプローチ】

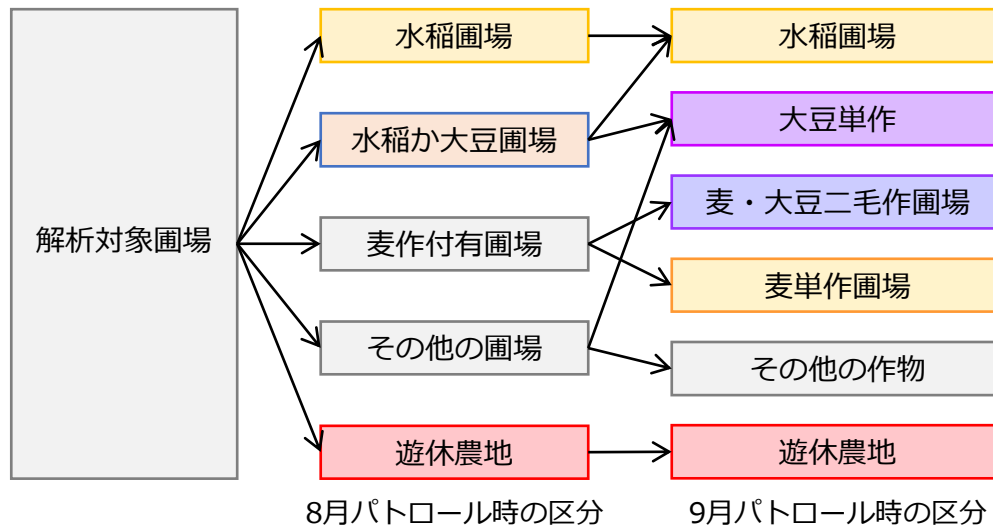
- 調査実施時期の前までに観測された衛星画像データを解析することで遊休農地を抽出し、圃場ごとの抽出確度を可視化することで、パトロール対象圃場選定の効率化を目指す。
- 2022年の衛星画像データ及び現地データを基に、既存の画像解析手法の改善を図り、2023年のデータで検証を行なった。

【実証の結果】

- 現地確認の結果を真値として人工衛星データから可視化した作付け区分の精度を検証した結果、**水稲：91.4%、小麦：93.2%、大豆：95.3%の高精度で判別**できていることが確認できた（圃場面積が5a未満は除く）。※ 作付け区分判定精度の達成目標：平均80%
- 誤判定した圃場の特徴としては、圃場の地図情報が現況と合致していない、圃場内で複数の作物が作付けされている、5a未満の狭小圃場等が挙げられた。

【関係者の評価】

- 高い精度で区分出来ていることに加え、判別の確度が分かることでパトロール及び対象圃場の選定を効率的に実施できる
- 農地の状況を可視化する技術として他業務での利用も期待できる



8月パトロール時の区分マップ



9月パトロール時の区分マップ

農業生産DX：スマート農業技術の導入（水稻生育診断）

【現状】

- 農業生産人口の減少に伴い、担い手となる経営体の耕地面積の増大が進んでおり、生産性の向上が求められている。
- 生産性の向上に対し、スマート農業技術の導入に向けた実証が各地で進められているものの、普及率は26.1%程度（データ活用している農業経営体（令和5年農業構造動態調査結果（令和5年2月1日現在・農林水産省））にとどまる。
- 滋賀県におけるスマート農業技術の普及率は18.5%（全国平均：17.0%，農林業センサス2020）と全国平均を上回るものの、普及途上の状況である。

【実証のアプローチ】

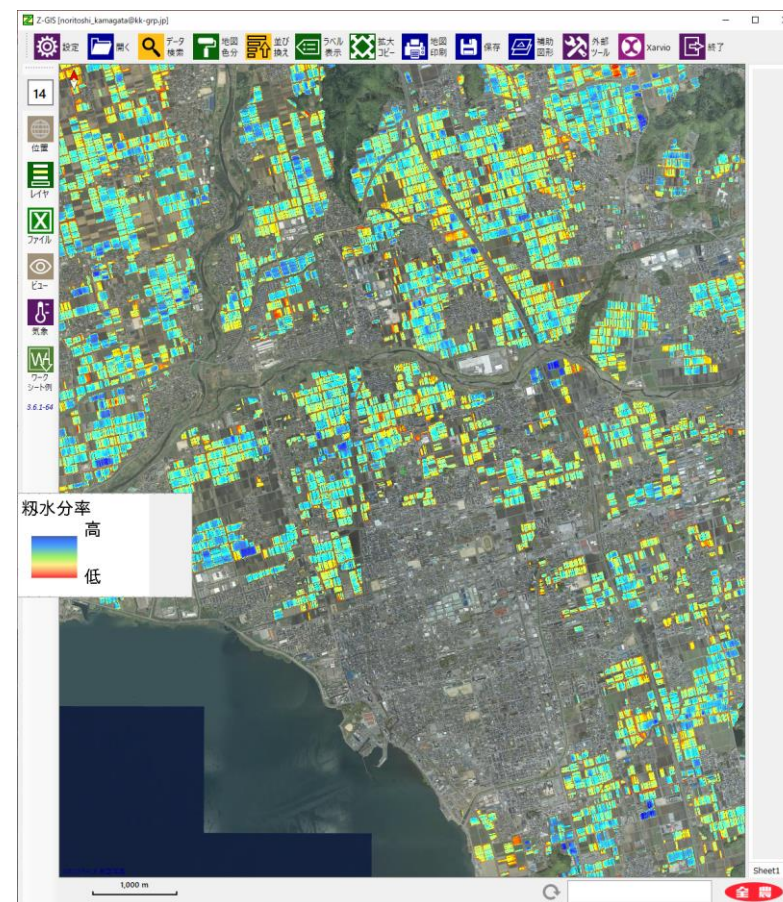
- 地域全体での農業生産性向上に向けて、人工衛星画像による農作物の生育状況の可視化を実施。
- 地域全体で生産されている水稻を対象に、収穫時期の籾水分率を可視化することで、収穫作業の省力化や品質向上・コスト削減を目指す。

【実証の結果】

- 実証に先立ち、関係者への説明会を実施することを予定していたものの、農繁期に入ったタイミングでの実証だったこともあり、情報の内容や活用方法などについて、十分な説明が出来ていない状況での可視化結果の提供であったため、本年度の営農への積極的な活用はなされなかった。
- 人工衛星データの特性として、広域を同じ基準で可視化できるメリットがあり、地域全体でのデータ活用が有効である。有効性を最大限に発揮させるために、地域全体でのスマート農業技術やデータ駆動型農業に対する理解の深耕が不可欠である。

【関係者の評価】

- 色味の違いだけでなく、具体的な数値が欲しい
- 圃場内・圃場間での比較ができて良い
- 防除や水管理と連携した活用ができそう
- 籾水分だけでなく、生産体系全体で活用する必要がある



成果と課題

本実証による成果

農業行政DX：農地パトロールにかかる時間と労力の削減

- 人工衛星画像を用いることで、直近の遊休農地及び作付け状況を概ね90%以上の精度で把握できることが確認できた。
- 長浜市全域の農地を同じ基準で可視化することができ、把握できていなかった耕作放棄地も抽出できた。
- 耕作放棄地及び作付け判定については、判定の確度をランク付け（A：90%以上，B：80%以上，C：70%以上，D：50%以上，E：50%未満）して情報として付与することで、農地パトロールすべき圃場の絞り込みが容易になるとともに、最適化が図れ、農地パトロール全般に要する時間と労力の削減が期待できる。

農業生産DX：農業生産性および歩留まりの向上

- 水稻に関して収穫期直前の人工衛星画像を用いて籾水分率を可視化。
- 情報の内容や活用方法などについて、十分な説明が出来ていない状況での可視化結果の提供であったため、本年度の営農への積極的な活用はなされなかった。
- 他地域での導入実績に基づくと、籾水分率が低い圃場ほど収穫適期に近く、収穫計画の策定や水分のバラつきが少ない状況で乾燥機に入れることで、乾燥時間の最適化による燃料コストの削減、胴割れ回避による品質の維持・向上に繋がると期待される。

課題

農業行政DX

- 農業振興地域や獣害対策フェンスなど、人工衛星画像からだけでは判断できない事象が介在。
→ GISデータなどを組合せることで、OKエラー（解析結果は妥当だが、その他の理由により誤判定と判断した箇所）の区別をするなどして、運用時の利用方法を整理する必要がある。
- 圃場サイズが狭小（5アール以下）や現況の形状と合致していないなどGISデータに起因する誤判定
→ 圃場データの適時更新や使用する衛星の解像度の向上や使用する画像を増加させることで、誤判定を軽減（精度向上）に寄与すると考える。

農業生産DX

- 初期導入コストが高振れるスマート農機に対し、低コストで既存農機の活用も可能なデータ駆動型の農業が不可欠であるものの、スマート農業技術に詳しい人材の不足などにより普及が進んでいない。
→ 人工衛星データの特長として、広域を同じ基準で可視化できるメリットがあり、地域全体でのデータ活用が有効である。有効性を最大限に発揮させるために、地域全体でのスマート農業技術やデータ駆動型農業に対する理解の深耕が不可欠である。

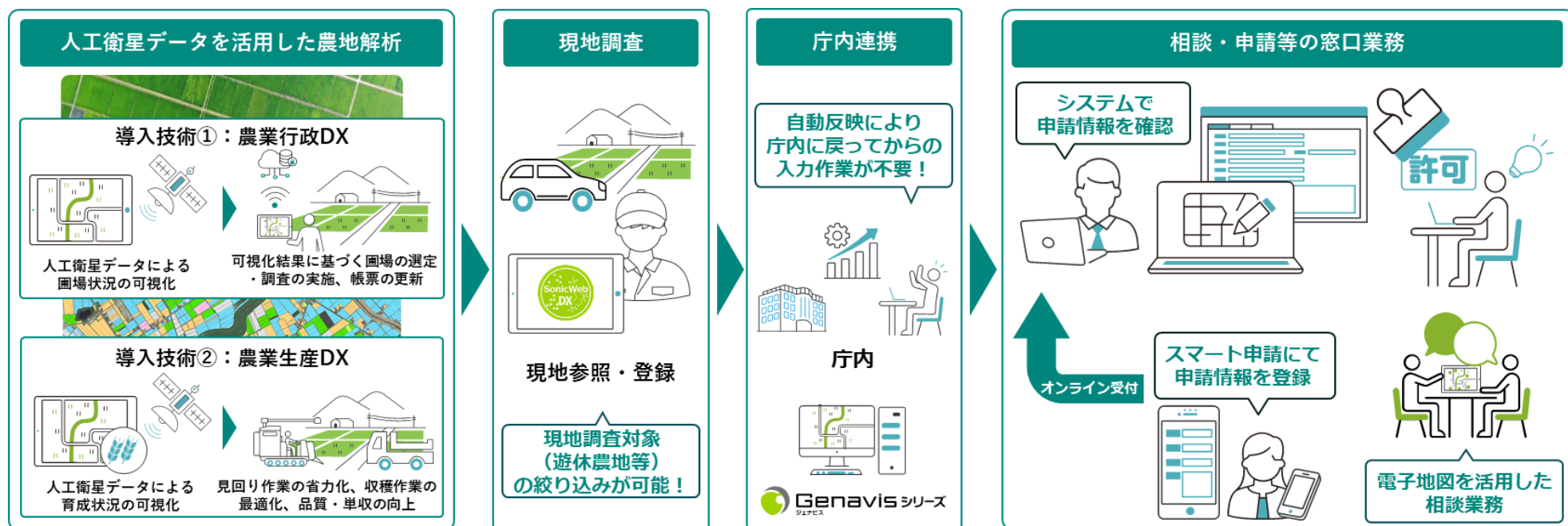
今後の展開等

農業行政DX：農地パトロールにかかる時間と労力の削減

- ・ 遊休農地・作付け情報だけでなく、農業行政に必要な農地情報の可視化について検討（対応可能メニューの拡充）
- ・ 現地調査結果の整理、GISデータへの反映などの省力化に向けて、国際航業が進めるDX施策と連携した取り組みを進めるとともに、相談・申請等の窓口業務の効率化を推進する（DXの促進）

農業生産DX：農業生産性および歩留まりの向上

- ・ 農林水産省や農研機構が進める「データ駆動型の農業」を長浜市でも実装することを目指し、関係者の方々と連携した取り組みを継続する



取組結果等に対する市担当部署コメント①

	農業行政DX：農地パトロール（作付け調査）	農業生産DX：スマート農業技術の導入（水稻生育診断）
成果	<ul style="list-style-type: none"> ○水稻・麦・大豆の作付状況について、衛星画像を用いて判断したデータ提供をいただいた。また、筆ごとに衛星画像の判定精度が何%かを表示したエクセルデータも提供いただいた。 ○判定結果については、職員が現地に出向いて確認した結果と突合し、全対象作物で90%以上の高い数値であり、十分活用できるデータであることを確認できた。 ○過去の衛星画像データも確認できることから、適期に作付け状況を確認できなかった場合においても遡って確認することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○水稻における収穫期直前の人工衛星画像を用いた籾含水率を可視化したデータを提供いただいた。 ○人工衛星から田んぼごとの含水率や一筆の田んぼ内の含水率のバラつき状況の確認ができた。 ○色で分別されており正確な含水率がわかるものではないものの、精度としては問題ないと考えられる。 ○可視化したデータを何人かの農業者に見てもらい意見をいただいたが、データ取得のタイミングがリアルな作業と合うのかといった意見が多く、例えば、現地で見ても水を入れたり止めたりの判断をしている農業者には、このデータをどう生かせばよいかわからないという反応だった。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ○筆ごとの衛星画像判定精度について、作物ごとに現地確認に行く必要の有無の境界値を検証する必要がある。 ○現地確認の対象作物は、水稻・麦・大豆以外に多種類の野菜等があり、衛星画像で判断できる作物を増やす必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○データを見て、どのように活用すると、栽培に生かせるのかといった具体的なデータ活用スキルを学ぶ場が必要である。 ○データ提供とそのデータの活用策の提案の両方を行えるソフトウェアやベンダー、或いはそれぞれに強みをもつソフトの連携によるサービス提供などの提案を受ける必要がある。
今後の展開等	<ul style="list-style-type: none"> ○現地確認の精度は期待できるものであり、今後、衛星画像で判断できる作物の種類が増えることで、現地確認は同様のシステムで行うことが常識となることを期待できる。 ○今後は、費用対効果を検証しつつ、他部署とのシステムの併用や、国などの助成事業の活用を含めて各種検討していきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○まずは学ぶ場づくりに取り組む ：人工衛星データを活用している農業者から活用方法を学ぶ場を設ける。 ○仲間づくりを進める ：データ活用に取り組む“同志”を作り、互いに情報共有や研鑽しながらスキルアップを図れるようにする。 ○データと連携した作業システムの提案を受ける。

取組結果等に対する市担当部署コメント②

【成果】

- 人工衛星データにより抽出した遊休農地が90%以上の精度となっており、遊休農地の特定化ができることで、農地パトロールすべき圃場の絞り込みを行うことができ、農地パトロールに係る日数、時間の削減が図れる。また、データによる作業を行うため、紙面資料を作成する必要がなくなり、ペーパレス化、資料作成の手間が省ける。

【課題】

- 草刈りなどの管理が行われている遊休農地も存在しており、1年間の人工衛星データを分析しないと、正確な遊休農地の圃場を抽出することができない。
- 現在把握していない遊休農地が一時的に増える可能性がある。

【今後の展開等】

- 同システムと合わせ、農地台帳と地域計画を紐づけた管理システムを構築して、タブレット端末を利用した農地の確認、遊休農地の判定、地域計画情報の確認などを行う農地情報デジタル化構築・管理・活用事業（仮称）の実施に向けて、各種検討・調整を行っていきたい。

概要

多くの自治体では、ゼロカーボンシティに向けた家庭・運輸部門のCO2排出量削減促進と人口減少、若者転出超過による社会減やエネルギー代金の市外流出による財政難が課題となっています。

そこで、エコライフアプリ「SPOBY（スポビー）」を活用して、「ライフスタイルの行動変容による脱炭素量の可視化」、「地域店舗参画による経済活性化」の2つのアプローチによって、環境未来人材の育成と地域魅力発信、社会プロジェクト化による外部財源確保の実現に向けて実証実験を行います。

実証実験で利用する具体サービス

① ライフスタイル脱炭素計測機能

- 乗り物移動を徒歩/自転車で代替した場合の脱炭素量を自動計測

② アプリ内特典交換機能

- 地域店舗がPRや集客を目的にアプリ内にクーポン等を用意する
- ユーザーは、アプリ内で欲しい特典を見つけ、貯まった脱炭素ポイントと交換する仕組み



行動変容を実現する
エコライフアプリ

SPOBY
スポビー

実証方法 (1/9)

【ゼロカーボンセミナー開催】

日時：2023年7月28日(金)13時30分

場所：長浜市市民交流センター ふれあいホール

参加者数：66名

市役所関係者65名＊長浜アメニティ会議会長

■内容

- ・ゼロカーボンシティの実現に向けた長浜市の取り組みについて
- ・SPOBYを活用した行動変容による脱炭素活動施策
- ・ながはまゼロカーボンビジョン2050でめざすこと

【実施背景】

アプリダウンロードの訴求だけではなく、なぜ今『脱炭素』が必要なのか広く知ってもらうために本セミナーを実施した。

長浜市ですでに取り組んでいる脱炭素活動に加えて、移動による脱炭素の可視化を行う『SPOBY』の仕組みについて理解を深めていただく機会となった。

参加者の多くは市役所職員だったが、市民へ広げていくには市の核である市役所職員の理解が必要不可欠である。

セミナー当日にSPOBYアプリをダウンロードしている姿が見受けられた。

▼当日の様子



実証方法 (2/9)

【広報活動】

本事業を市民に広く周知するため、長浜市内の公共施設・事業者へポスターやチラシを配布。その他市報やながはまテレビ等、さまざまな媒体を通して本事業の広報事業を実施した。

▼長浜市HPに特設ページを設置



▼イオン長浜店デジタルサイネージ投影



▼A1ポスター掲示/チラシ配布



【掲載依頼先一覧】

- ・長浜市役所
- ・支所、振興局 8ヶ所
- ・図書館 6ヶ所
- ・文化ホール、センター 21ヶ所
- ・滋賀県庁 4課
- ・長浜市商工会
- ・長浜市商工会議所
- ・JR西日本 長浜駅
- ・えきまちテラス長浜
- ・銀行関係 6ヶ所
- ・琵琶湖博物館
- ・長浜バイオ大学
- ・滋賀県立大学
- ・イオン長浜店
- ・高橋金属株式会社
- ・株式会社バイオマスアグリゲーション
- ・JA北びわこ
- ・ヤンマーパワーテクノロジー株式会社
- ・長浜キャノン株式会社
- ・湖国バス株式会社
- ・ワボウ電子株式会社

実証方法 (3/9)

【広報活動】

本事業を市民に広く周知するため、ポスターをリニューアル。

これまで以上に市民の目に留まるよう、長浜市内の施設へ直接電話で掲示許可をとり、弊社から個配送を行った。コンビニエンスストアでは、株式会社ファミリーマート滋賀北営業所に仲介してもらい、市内3店舗の掲示に至った。

▼A2ポスターリニューアル/掲示



↑ファミリーマート長浜柳町店



↑ファミリーマート 長浜大戌亥町店

【掲載先一覧】

- ・長浜市役所
- ・長浜市商工会
- ・長浜商工会議所
- ・イオン長浜店
- ・湖国バス株式会社長浜営業所
- ・長浜バイオ大学
- ・滋賀県立看護専門学校
- ・滋賀文教短期大学
- ・フレンドマート長浜駅前店
- ・ファミリーマート長浜柳町店
- ・ファミリーマート長浜大戌亥町店

実証方法 (4/9)

【広報活動】

2023年12月末からは、長浜市内道の駅においてサインージに掲載やチラシを設置した。

▼サインージ (道の駅 塩津海道 あぢかまの里)



▼両面チラシ

- ・道の駅 湖北水鳥ステーション
 - ・道の駅 塩津海道 あぢかまの里
- 各100部ずつ



▲チラシ・表

実証方法 (5/9)

【協賛事業者募集】

本事業は地域の事業者のプロジェクト参画をもって成り立つため、長浜市商工振興課・商工会議所と連携し協賛募集を促した。2023年9月までは物品のみの協賛、2023年11月からは地域店舗へSPOBYユーザーが地域店舗を直接訪問した際に利用できる特典の募集を行ったが申し込みの実績なく終了。

▼商工会議所広報誌9月号見開き1面へ掲載

令和5年度 長浜市 DX 実証実験プロジェクト
ながはまゼロカーボンウォーク協賛募集

「令和5年度長浜市DX実証実験プロジェクト」の目標の1つとして、株式会社スタジオズビーと長浜市はエコライフアプリ「SPOBY」を活用して、2023年8月1日から2024年2月29日までの期間でゼロカーボンシティの実現に向けた実証実験を行っています。
 市民が楽しみながら脱炭素に向けて取り組む機運となるよう、協賛についてご協力をお願いします。

1. 事業の仕組み
 この事業は、エコライフアプリ「SPOBY」をダウンロードしたユーザーが、アプリ内に貯まった脱炭素ポイントと引き換えに、協賛店が提供するサービスをいただけることができるものです。

2. 協賛店になると
 4つのメリット！
 長浜市HPやSPOBYアプリで店名や商品を紹介！
 市内だけでなく全国のSPOBYユーザーの目に留まる！
 店舗に行く機会が増え顧客数・売上UPが期待できる！
 メディア掲載の事例あり！

協賛方法
A 交換会場の物品協賛
 交換会場の物品協賛
 ・オービス自転車スタンド
 ・ジルスフィアボックス
 ・キャンプ 等
 2023年9月まで
 申込受付時間 9:00～19:00 (土日祝除く)

B 店舗来店時のサービス協賛
 店舗来店時のサービス協賛
 ・お茶出し
 ・ドリンク1杯
 ・お花見サービス 等
 2023年8月～12月まで
 申込受付時間 2022/11～2024/7 まで

みなさんも協賛店に登録して、地域貢献にご協力をお願いします。

お問い合わせ
 長浜市商工振興課 協賛募集係
 TEL: 0749-65-4113
 FAX: 0749-64-1407
 E-mail: kankyo@city.nagahama.lg.jp

アプリに関するお問い合わせ
 株式会社スタジオズビー
 TEL: 03-6435-7294
 E-mail: sponsor@spoby.jp
 アプリ名: SPOBY (SPOBY)

協賛に関するお問い合わせ先
 SPOBY オンライン説明会
 随時開催！
 水 14:00～15:00
 申し込み期間: 2023年8月1日～2024年2月29日

【協賛に関するお問い合わせ先】
 株式会社スタジオズビー
 TEL: 03-6435-7294
 E-mail: sponsor-info@spoby.jp

商工会議所の会員向け送付物に
 左記デザイン両面チラシを1300枚同封。

商工会議所メルマガ配信にて本事業告知。

実証方法 (6/9)

【第1回 特典プレゼント会 開催】

日時：2023年9月30日(土)、10月1日(日)10時～16時
場所：アート・イン・ナガハマ 豊国神社

■特典

- ・スポーツシューズ2種 [アキレス(株)]
- ・低糖質パスタyunit [(株)出雲たかはし]
- ・釜玉太郎3種 [ヤマモリ(株)]
- ・ステンレスポトル [タケヤ化学工業(株)]

■内容

- ・すでに特典を獲得された方へのお渡し
- ・来場・ダウンロードされた方へ商品や啓発トイレットペーパーのプレゼント

【第2回 特典プレゼント会 開催】

日時：2023年12月2日(土)
場所：イオン長浜店 2階 専門店側エスカレーター横

■特典

- ・トローリ ウォーターメロン [(株)スタイリングライフ・ホールディングス]
- ・クリスピーチップス キムチ [(株)スタイリングライフ・ホールディングス]
- ・Royco ロイコ スープ2種 [(株)スタイリングライフ・ホールディングス]
- ・瞬足2種 [アキレス(株)]
- ・折りたたみ自転車 [(株)スタジオスポービー]

■内容

- ・すでに特典を獲得された方へのお渡し
- ・来場者へ啓発トイレットペーパーのプレゼント

▼AINへ協賛、パンフレット掲載 (掲載部分抜粋)



▼当日の様子



実証方法 (7/9)

【アプリ内特典商品・合計数】

タケヤ化学工業株式会社

- ・TAKEYA FLASK (ステンレスボトル) 合計10本

株式会社アキレス

- ・ハイパージャンパー (シューズ) 合計16足
- ・瞬足 (シューズ) 合計16足

株式会社出雲たかはし

- ・yumit (低糖質パスタ) 合計17食

ヤマモリ株式会社

- ・釜玉太郎キーマ (釜玉うどん調味料) 合計60食
- ・釜玉太郎明太 (釜玉うどん調味料) 合計60食
- ・釜玉太郎台湾まぜそば (釜玉うどん調味料) 合計60食

株式会社スタイリングライフ・ホールディングス

- ・トローリ ウォーターメロンスプラッシュ (お菓子) 合計40個
- ・クリスピーチップス キムチ (お菓子) 合計30個
- ・Royco ロイコ スープ チキン (スープ) 合計10個
- ・Royco ロイコ スープ トマトクリーム (スープ) 合計10個

株式会社スタジオスポビー

- ・折りたたみ自転車 1台
- ・骨伝導イヤホン 1個

特典総数

331

※2023/8/1～2024/1/31の合計

実証方法 (8/9)

【アプリ内掲載バナー】

コミュニティバナーの他、特典掲載につきバナーを作成。



◀コミュニティバナー

▼8/1~10/1掲載リワードバナー



▼11/1~12/1掲載リワードバナー



▼1/4~1/31掲載リワードバナー



※獲得人数のみを変更したバナーは制作数に含まない。

実証方法 (9/9)

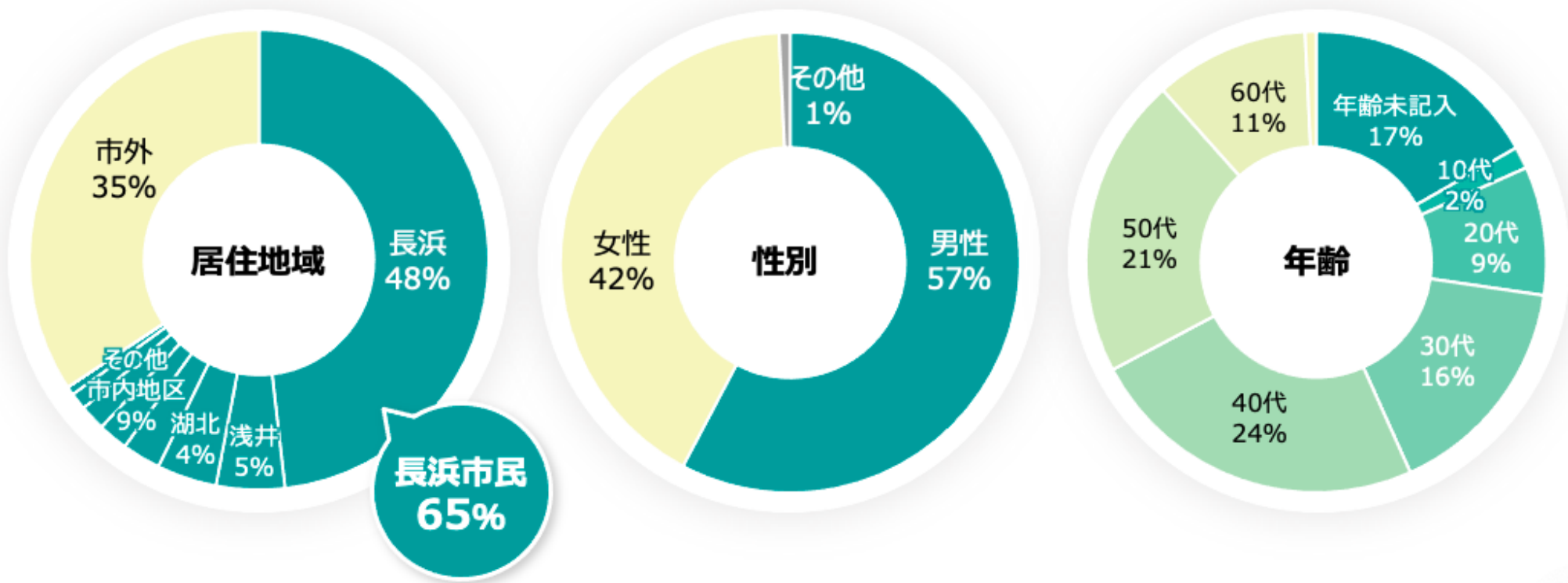
【実施スケジュール】

	2023年			2024年			2月	3月
	8月	9月	10月	11月	12月	1月		
SPOBY運用	SPOBY問い合わせ対応							
		アンケートの実施		地域協賛店舗リワード公開				
		特典交換会		特典交換会		市役所にて特典お渡し		
広報活動	協賛事業者へのオンライン説明会（随時）							
	DL促進セミナー	アートインナガハマリーフレット		ポスター・チラシ・サイネージ リニューアルデザイン作成・掲示				
				プレスリリース発信	プレスリリース発信			
データ分析	分析項目のすり合わせ			取得データ分析			報告書作成	

目標に対する結果 (1/3)

【活動指標KPI① アプリ「SPOBY」のダウンロード件数】

現在値/目標値 = **390名**/700名 (達成度56%) ※本事業の累計参加者数 (退会者含め) 881名

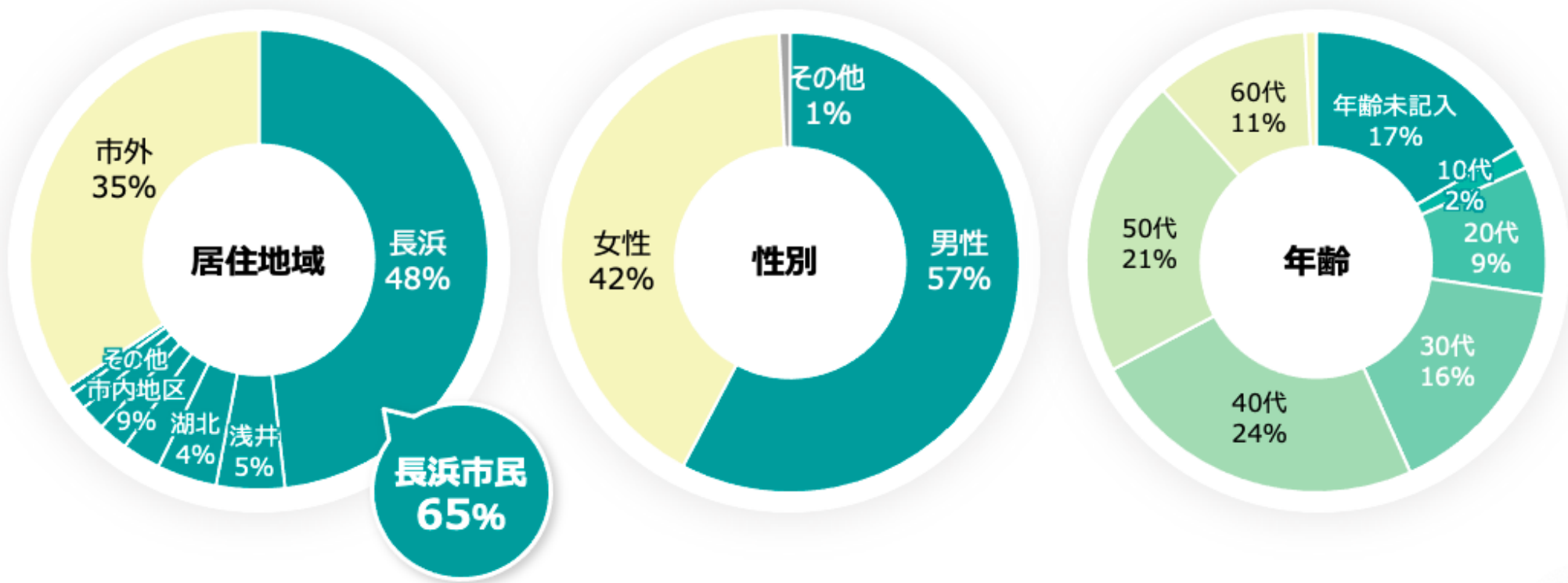


※2/5時点データ

目標に対する結果 (1/3)

【活動指標KPI① アプリ「SPOBY」のダウンロード件数】

現在値/目標値 = **390名**/700名 (達成度56%) ※本事業の累計参加者数 (退会者含め) 881名



※2/5時点データ

目標に対する結果 (2/3)

【活動指標KPI② 地域の協賛店舗参画数】

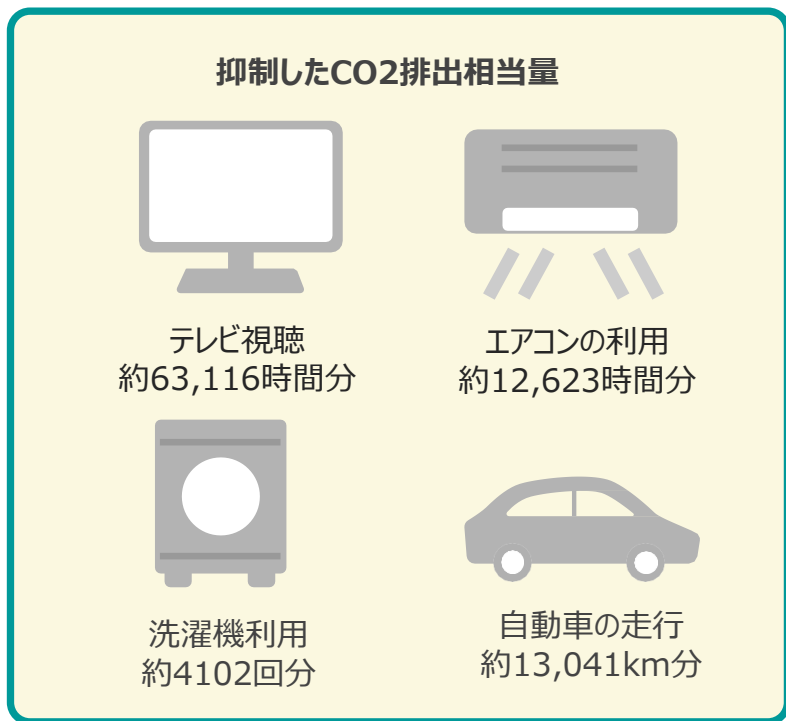
現在値/目標値 = 0/9 (達成度0%)

※協賛店舗巻き込みを行わない形に途中から計画変更 (詳細についてはP19に記載)

【成果指標KPI① 実証期間中 (8月～11月) の総脱炭素量】

現在値/目標値 = 3,155kg/3,750kg (達成度84%)

一人あたり累計脱炭素量 : 8.1Kg ひと月平均 : 525kg/月



※ LCIデータベースIDEAv2(サプライチェーン温室効果ガス排出量算定用)
 ※株式会社WasteBox「CO2 1トン・1キロはどのくらい?」

▼実証期間累計脱炭素量ランキング

順位	居住地	総脱炭素量(g)
1	長浜地区	1,078,659
2	虎姫地区	385,304
3	びわ地区	191,605
4	湖北地区	91,817
5	木之本地区	12,767

※長浜市外を除く

順位	年代	人数	脱炭素量(g/人)
1	20代	35	11,486
2	50代	82	10,447
3	40代	93	7,647
4	60代	42	5,761
5	30代	62	5,707

※2/5時点データ

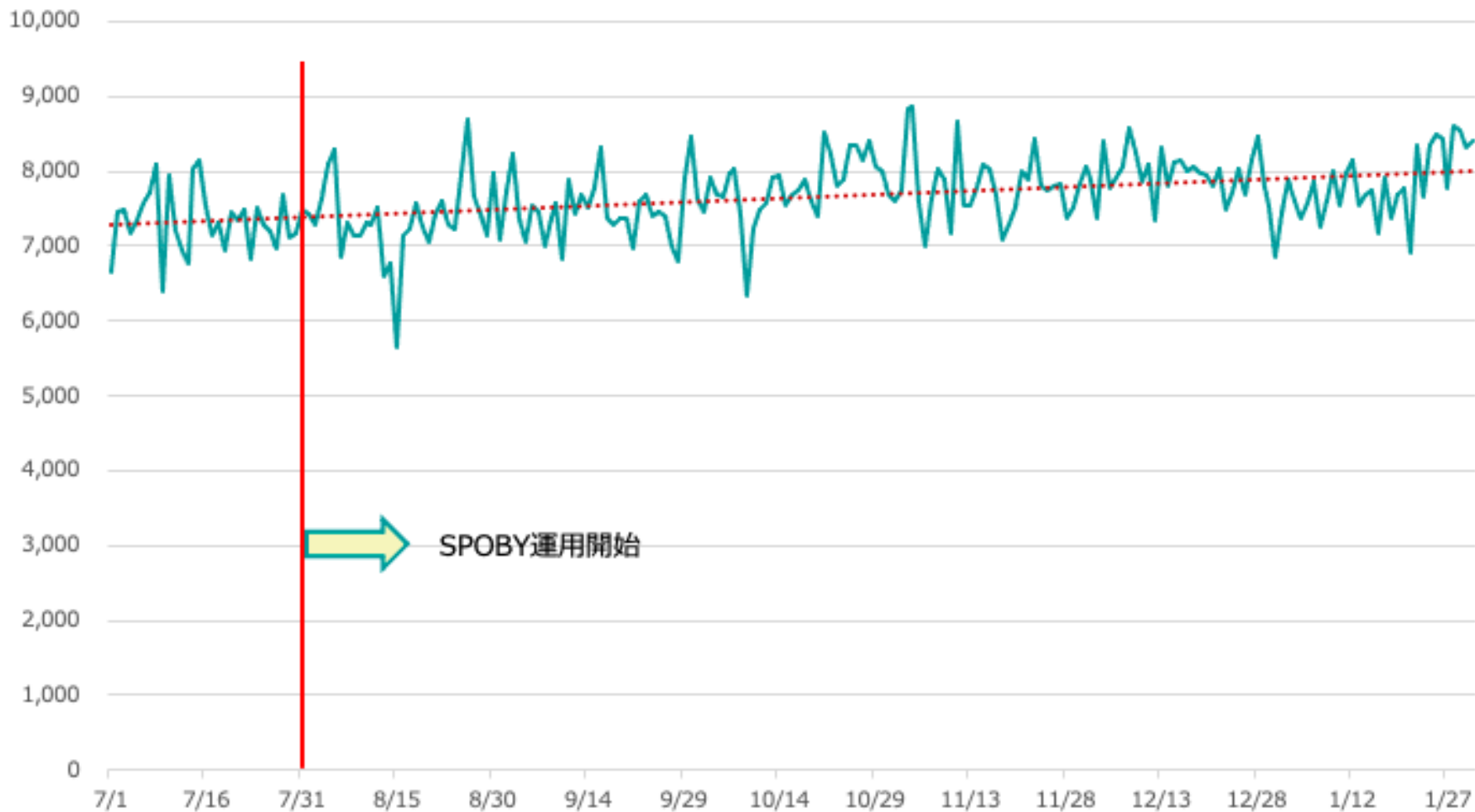
目標に対する結果 (3/3)

【成果指標KPI② 実証期間中の平均歩数の増加】

現在値/目標値 = **+500歩**/+400歩 (達成度125%)

7月平均歩数 : 7,338歩 ※参加者の入れ替わりにより、前回報告時と平均歩数が異なる。

1月平均歩数 : 7,838歩



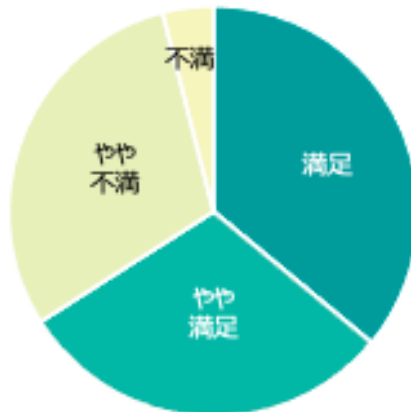
成果と課題 (1/2)

【アンケート実施】 アンケート回答数 56 (回答率 : 14%)

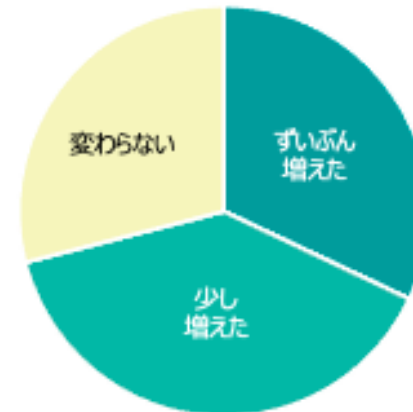
◆ SPOBYを知ったきっかけ

- No.1 市の広報
- No.2 友人、家族、同僚に勧められて
- No.3 TVやインターネットニュース
チラシ、ポスター

◆ SPOBYの満足度
→「満足」66%



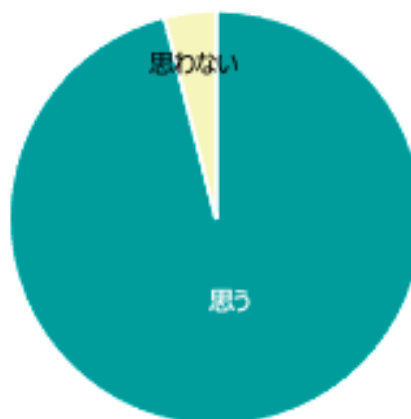
◆ 「少しの距離なら歩こう」と思う機会
→「増えた」71%



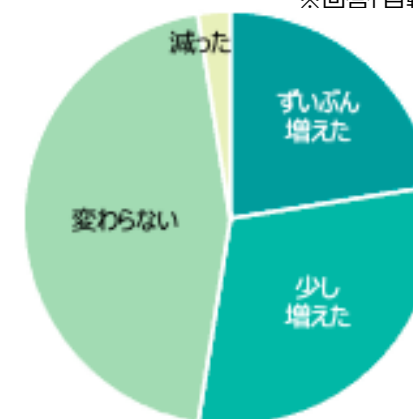
◆ SPOBYを使おうと思ったきっかけ

- No.1 特典が魅力的だった
- No.2 環境保全・脱炭素に興味があった
- No.3 健康のために歩こうと思った

◆ SPOBYを使い続けようと思うか
→「思う」96%



◆ 「少しの距離なら自転車に乗ろう」と思う機会
→「増えた」53%



※回答「自転車に乗らない」を除く

成果と課題 (2/2)

本実証による成果

▼脱炭素量

当事業を始めてから総脱炭素量は3,155kgに達し、一人当たりの累計脱炭素量は8.1kgである。アウトカム指標KPIでは実証期間中の総脱炭素量を3,750kgとしており、達成度は84%だった。

実証期間中の脱炭素量を自動車のCO2排出量に置き換えると、市民1人が実証期間中に335kmの車移動を歩行や自転車に代替したことになる。歩行・自転車の平均移動距離を見ると月を追うごとに歩行・自転車による平均移動距離が伸びており、脱炭素に向け移動手段を乗り物ではなく、歩行や自転車を選択する方が増えた可能性を示唆している。

※歩行における平均移動距離/人・月	: 8月 1.4km	11月 1.6km	1月 2.9km	
自転車における平均移動距離/人・月	: 8月 2.3km	11月 4.0km	1月 4.4km	(脱炭素行動実行ユーザーのみの平均数値)

▼平均歩数

SPOBY利用開始後、参加者の平均歩数が増加している。当事業へ参加の全ユーザー平均歩数を見ると、8月の平均歩数は+261歩、11月は+895歩、1月は+500歩の結果となった。

国土交通省「まちづくりにおける健康増進効果を把握するための歩行量（歩数）調査のガイドライン」によると、年間を通して平均歩数が1,000歩増加することで、年間医療費が23,000円削減できると言われている。実証期間を通しての平均歩数は+362歩で、一年を通してこのままの平均歩数増加が維持できれば、一人あたりの年間医療費削減効果は8,326円となり、参加者390名を合計すると年間324万7千円の医療費削減効果に相当する。

※厚生労働省によると、令和2年度の国民医療費は42兆9,665億円、人口一人当たりの国民医療費は34万600円にのぼる。

※参加者の入れ替わりによって、前回報告した際の平均歩数と数値が異なる。

課題

①長浜市コミュニティの参加者数

→地域店舗の従業員や店舗利用者に地域感を持って訴求することで、より参加者数の増加を見込むことができると思われる。

②協賛店舗の巻き込み

→下記のような理由から協賛店舗の巻き込みが想定通りに進めるに至らず、事業推進には特典の準備が必要のため途中から方針を転向することとなった。

・期間限定の実証であることが理由で参画を踏みとどまった店舗があった。

・「ピワテク」に協賛している店舗があるため、似たような事業形式で依頼を進めにくかった。

一方で、多くの施設でポスターやチラシ、サイネージの設定にご協力いただくことができ、地域の参加協力の姿勢を強く感じられたので、社会実装の際には、ピワテクとの関係性と当事業の目的を整理・明確化した上で説明を実施する等、店舗が参加しやすい運営体制を整えることが必要と考える。

取組結果等に対する市担当部署コメント

【成果】

- 可視化が難しい二酸化炭素の削減量について、デジタル技術の活用によって数字で把握することが可能となった。SPOBYの運用を開始してからの総脱炭素排出量は3,155kgに達し、長浜市の運輸部門での二酸化炭素排出量削減に寄与したものと考えられる。
- アプリの操作性が良く、初心者でも簡単に操作することができた他、抽選による特典商品のプレゼントなどにより市民が楽しみながら行動変容につなげることができた。

【課題】

- 市街地と比べ長浜市北部は商業施設等の目的地が遠方にあり、徒歩や自転車を代替手段として選択することについて地理的な難しさがあったのではないかと考察する。
- 県ですでに導入されている健康増進アプリ「ビワテク」との差別化が難しかった。

【今後の展開等】

- さまざま環境配慮行動に取り組むことができるよう、各種検討を続けていきたい。

〈PJ〉 長浜市内の中小企業×フリーランス・複業人材のマッチング事業

概要

中小企業においては、人材・資金・戦力面などのリソース不足によって、社内DXや経営課題の解決に取り組みたくても取り組めない状況にあるのではないかと考えています。

そこで、本取組では、市内中小企業の事業成長を妨げるものをなくし、DXを通じた新たな関係人口創出を生み出すことを目的として、「あなたの会社『me』」Webサービスを使って、市内中小企業の経営者向けにDXや新たな事業展開に向けた伴走役となるフリーランス等のマッチングを行います。当サービスが、中小企業における新たなチャレンジに対して貢献できるか検証していきます。

実証実験で利用する具体サービス

① 中小企業側の経営課題等の洗出し

- 中小企業側向けの「複業活用」ワークショップの開催
- ワークショップにて、経営課題を確認し、「あなたの会社『me』」Webサービスに入力

② 「あなたの会社『me』」Webサービス (※)

- フリーランス・複業人材への信用スコアを測定し付与
- 信用スコアをもとに、中小企業側が求める人材とのマッチングを行う

※AIによる信用スコアをベースにした人材マッチングシステム



実証方法 (1/2)

目標：中小企業の経営課題からの質問数に向けた実証

中小企業の利用者確保のため、見込みユーザーとなる中小企業を下記セミナーを開催した。
 長浜市・長浜ビジネスサポート協議会とも連携し周知を行い、集まった企業への外部人材への声かけ、および見込みユーザー確保を行なってヒアリングを10月6日及び10月12日に行なった。
 ヒアリングの結果、1名の復業希望者を獲得することができた。

滋賀県の中小企業必聴 受注率100%
 数十万円の商品が受注率100%で売れた理由

「YouTube集客」完全ガイド

滋賀県で中小企業に特化した広報支援を行う会社、しがとせがい株式会社を経営し滋賀県を世界で住みやすいまちNo.1にするビジョンに滋賀県に面白くて働きたい会社を増やすべく、企業の広報、ブランディングに携わる。現在はゴルフ場、メーカー、製造業、自治体、建設会社など多数の広域支援を行っている。YouTube集客を特に得意とする。実店舗としてはコワーキングスペースを運営しこれまでの経験を元に2017年に「コワーキングスペースは地方で成り立ちますか？」2023年に「よくわかるコワーキングスペース開業・運営の教科書」を出版。2023年に滋賀県発のスタートアップとしてme株式会社を設立。
 これまでのYouTube集客の経験を中小企業に当てはめる場合の法則を紹介いたします。

me株式会社 代表取締役 中野龍馬 氏

日時 2023/10/6 13:00~14:30 締切 10/2
 下記の申し込み書にてQRコードよりお申し込みください。 QRコード

参加費 **無料** 会場 ビジネスサポートセンター1F フューチャールーム(さざなみタウン) 滋賀県長浜市高田町12番34号(ながはま文化福祉プラザ)/駐車場あり

主催：me株式会社 後援：長浜市、一般社団法人長浜ビジネスサポート協議会 TEL:0748-60-2249 MAIL:info@japan-ese.info

外部人材活用セミナー 参加費 無料

中小企業の社長の忙しい問題を解決しましょう。
 ITのこと、マーケティングのこと、広報のこと、新規事業のこと。
 相談できる相手が周りにおらず、自分でも「わからないことがわからない。」そんな状態に陥っていませんか。
 これからの時代に合わせた新たなチャレンジをするときに、社内人材ではない外部人材を活用することで、より事業の課題をしっかりと出して新たな成長をすることが出来ます。
 今回は中小企業と外部人材のマッチングプラットフォームを提供しているme株式会社の中野代表を招き、外部人材を活用するメリット・デメリットを含めて学べる時間になります。

滋賀県で中小企業に特化した広報支援を行う会社、しがとせがい株式会社を経営。これまで民間、団体、自治体向けに広報業務としての奔走として経験を積み、2023年に中小企業と外部人材のマッチングサービス me を開発・運営。現在滋賀県長浜市、宮崎県都農町の2自治体と実証実験を行い中小企業の人材不足解消に向けた事業を行っている。



日時 2023/10/12 13:00~14:30

締切 10/10 下記の申し込み書にてQRコードよりお申し込みください。 QRコード

会場 ビジネスサポートセンター1F フューチャールーム(さざなみタウン) 滋賀県長浜市高田町12番34号(ながはま文化福祉プラザ)/駐車場あり

主催：me株式会社 後援：長浜市、一般社団法人長浜ビジネスサポート協議会 TEL:0748-60-2249 MAIL:info@japan-ese.info



スケジュール	実施内容	目的
2023年9月初旬 - 10月初旬	復業人材を集めるプロモーションをWebにて行う	復業人材を集めていき、質問に回答することができる人材を増やしていく
2023年10月初旬	中小企業側へ向けたセミナー開催	中小企業経営陣、企画担当に対する課題への情報提供、及び復業人材活用希望者を集める
2023年10月初旬	中小企業へのインタビューを行い質問分を出していく	me内への質問を出していき、都度復業人材へアプローチしていく
2023年10月後半 - 12月末	中小企業と復業人材へのマッチングを促す	中小企業が抱える課題に対して、解決できる復業人材をマッチング。
2024年1月 - 2月上旬	都度セミナー開催及びマッチング事例をWebで紹介していく	長浜市内の復業活用をしたい人材をさらに増やしていくためWebで情報発信を行う

実証方法 (2/2)

目標：中小企業の経営課題からのマッチング数

複業者側の確保が必要となるため、新たにWebサイトを構築。9月にサイトをSNS広告を行い、複業者の確保へと持っていき、外部人材活用セミナーの際には実際にどんな複業者がいるかを伝えていく予定だったが、事業の方向性を変更することから、この施策は行いませんでした。



<https://h-elp.me/shiga>

成果と課題

本実証による成果

9月からの複業者獲得、10月からの実施での成果数獲得を目指し、関係各所との調整しセミナーを開催しました。
1名の復業希望者を獲得しましたが、中小企業とマッチングには至りませんでした。

課題

10月6日にイベントを開催しましたが、12日は人が集まらず開催が行えませんでした。
6日のイベントでの参加者にmeの実証実験に興味がある方へのアンケートを行い、1件複業者側での実証実験に対応いただきました。

福島県のまちづくり会社での課題に対して提案してもらいましたが、結果的にマッチングに繋がるできませんでした。
また他地域でも今回の内容とは別に10件以上のmeでの実証実験を行いました。マッチングまでに至らず、meのサービスを進めることが難しいことが判明。

マッチングを進める難しさの要因に「中小企業の課題」と「復業者の提案」による mismatching が要因となります。
meでは、復業者側には中小企業側の情報は社名や住所、Webサイトなどの情報を開示しておらず、その結果抽象的な提案に収まってしまったことが要因でした。また、開示を行っても提案がより具体的になるかは不透明かつ、当事業を広げていくことが地域におけるニーズからはまだ離れており難しいことがわかりました。この結果、事業を進めてもKPI達成には至らないと判断し、事業そのものを方向転換することとしました。

今後の展開等

本事業に関しては新たに方向転換し、中小企業×復業者のマッチングサービスからSNSの顧客管理ツールへと開発を進めております。

長浜市の一事業者の方とも話を進めており、今後の展開としてはテスト版の導入が決定しております。
今回の事業では、仮説していた事業者の広報課題を浮き彫りにしたい一方、提供するサービスが間違っていたこと。そこに実務を通して気づけたことがとても大きいものです。

また長浜市との連携で、担当部署の商工振興課様にはとても尽力いただきました。

今後は事業展開をしていったサービスでより事業を広げていき、長浜市・滋賀県に還元できるスタートアップを目指してまいります。

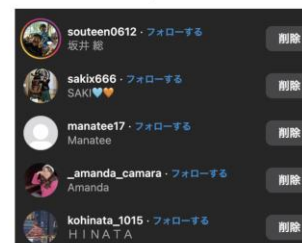
行いたい施策 「フォロワーのファン化を狙う」

現在



フォロワーの顧客管理

フォロワーの投稿内容と生成 AI による連携で
人ごとにタグ内容を生成。



- souteen0612
滋賀在住 # カメラ好き # 湖南市訪問 5 日前 # 年代 : 40 代
- sakix666
女性 # 30 代 # 元滋賀県民 # カフェめぐり
- manatee17
小学生の子供 # 甲賀市 # 家建築中
- _amanda_camera
風景画 # 滋賀県民 # 花屋 # メーカー所属
- koninata_1015
ジブリ好き # 20 代 # 男性 # 大卒

取組結果等に対する市担当部署コメント

【成果】

- ビジネスマッチングに至らなかった点について残念な結果となったが、当事業の入口となるセミナー開催にあたり、産業支援機関と連携して告知等を積極的に行い、市内企業の興味関心を引くことができた点については、中小企業に課題解決の道を探る機会を与えられたものと評価したい。

【課題】

- 人材不足が大きな課題となっている中、ニーズが不明確であった複業人材の活用によるマッチングサービスの実証実験を通して、中小企業の課題と復業者の提案との mismatch など、当サービスの抱える課題を明らかにすることができた。
- 当課で今後、中小企業に対する支援を検討するにあたり、参考となる結果として評価したい。

【今後の展開等】

- 当事業者は、今回浮き彫りになった課題をもとに、現在、本市において顧客管理ツールを使用したサービスの提案を進めており、既に、一部の市内事業者で導入が決定していることから、市外事業者が市内へ進出し、新たな事業を展開できる機会となるとともに、市内事業者の課題解決に繋がった。
- また、長浜商工会議所や長浜市商工会、長浜ビジネスサポート協議会など、実証実験を通して本市の産業支援機関とも密に連携したことにより、こうした新規事業への相談や支援もスムーズに行うことができた。今後の新たな事業展開に期待したい。